

5 年「名前のない手紙」

展開例

- 主題**…先生の願いや意図が明確になるよう 1 文で表します
- 導入**…導入の後、どこかで、導入に関わる問いや話を入れます。そうすることで授業に一貫性が出ます
- 展開前段**=立場発問…ある人の立場を取得して共感する学び
- つなぎ発問①**…教材の学びから、児童生徒の実感に即した見方や考え方に広げ、展開後段の問いを多角的な視野から考えることができるようにする
- 展開後段**=主題発問…道徳的価値について考えを深める学び
道徳的価値の「捉え」「よさ」「大切さ」「態度」「意欲」を考えさせる
- つなぎ発問②**…展開後段で出された道徳的価値への考えを具体化したり、生活とのつながりを実感できたりする問いや話を入れ、終末の振り返りの手がかりにする
- 終末**=主体発問…自己の生き方について考える学び
学習から学んだことを鏡として、これまでの自分を見つめて、自分のよさを見つけたり、よりよい自分の姿を想像したりする観点をもって振り返る

振り返り…ウェルビーイングの視点を取り入れた観点を示して振り返らせる

※振り返りの 4 観点は、次のようになっていますが、ABCD によって書く観点数が異なります。

- ・これまでできていること、満足していること（よさ・自己肯定感）
- ・もっとやってみたいこと、もっとできそうなこと（ポジティブ・目的意識）
- ・誰かといっしょにやりたいこと、誰かといっしょならもっとできそうなこと（他者との協働）
- ・これから、なりたい自分（自己実現への期待）

※これに合わせて、低中高学年別、また ABCD 別にした「振り返りシート」も作成していますのでお問い合わせください。

※すべての観点について書かせるか、先生がいくつか指示をして書かせるか、または、子どもが選んだものを書かせるか、お決めください。

先生の、児童生徒に一番考えさせたい願いや意図（主題）に基づいて、よいように授業をおつくりください

主 題	人として失ってはならない心がある	仲間はずれを許さない学級は何気ない毎日からつくろう	
導 入	今日のお話の学級で、仲間はずれが起こってしまいました。でも、最後は、解決していきます。どうしたのでしょうか		
展 開 前 段	○仲間はずれが始まったとき、「わたし」は、どんなことを思ったでしょう ○仲間はずれが続いているとき、「わたし」は、どんなことを思ったでしょう ○名前のない手紙を読んでいて、「わたし」は、どんなことを思ったでしょう		
つ な ぎ 発 問 ①	○仲間はずれが始まったとき、みんなは、どんなことを思ったでしょう ○手紙を届けながら、吉野さんは、どんなことを思っていたでしょう	○仲間はずれが始まったとき、みんなは、どんなことを思ったでしょう ○他に、どんなことがきっかけで、仲間はずれは生まれるのでしょうか	

	○吉野さんの話を聞いて、みんなは、「わたし」にどんなことを言ったのでしょうか	○そして、どんなことで、仲間はずれは、大きくなったり、激しいものになったりするのでしょうか	
展開後段	仲間はずれがある中でも、人として、どんな心を失ってはいけないのでしょうか	仲間はずれを許さない学級とは、普段からどのような学級なのでしょうか	
つなぎ発問②	仲間はずれが起こらないようにしなければなりません。でも、起こってしまったとしても、人として、ギリギリの心は失わず、それを大きくして行ってほしいものです	毎日の何気ないことの中に、「おや」「あれ」と気づいていきたいですね	
	・今日の学習から、分かったこと、心に残しておきたいことはどんなことですか① ・①のことで、もうすでに、仲間はずれがないように、やっているよということはどんなことですか ・①のことをもとに、これから、仲間はずれがないように、やっていきたいことはどんなことですか ・①のことをもとに、みんなと一緒にやってみたいことはどんなことですか ・①のことをもとに、これから、どんな自分になるとステキだと思いますか では、振り返りを書きましょう		
振り返り			